

(学年) 第2学年、(教科・科目) 農業科・果樹

一斉学習

(単元) ブドウ

(本時のねらい)

2年生の果樹専攻生徒は、ジャム作り等の加工実習やさまざまな果樹の収穫実習及び販売活動への関心が高い一方で、果樹の基本的な栽培管理についての知識と技術を学ぼうとする意欲が低いと感じる。そこで、自ら栽培管理を担当する学校農場のブドウ生産の現状と課題について理解し、高品質なブドウを生産するための重要なポイントである房づくりやジベレリン処理についての知識と技術を習得させるために、本単元を設定した。

(ICT活用方法)

プレゼンテーションソフトを使って、ブドウ栽培に関する学校農場のデータや先輩の活動風景の写真を見せながら、生徒の興味関心を高めることを試みる。また、後半では、ブドウの摘粒の方法について、プレゼンテーションソフトの資料で模擬演習を行いながら、実践場面で活用できる技術の習得を図る。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・ブドウ生産の現状と課題を知る。	・統計データを説明しながら、ブドウ生産の現状と課題を理解させる。	・一人一台端末により、授業支援クラウドアプリから、プレゼンテーションソフトのデータを共有する。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理に取り組む先輩の映像を見て、ブドウの栽培管理の技術を知る。 ・花振るいと種子が入る原因、房づくり(摘粒)の主な原因と対策を知る。 ・房づくり(摘粒)の模擬演習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校農場で自ら栽培管理を担当するブドウの樹勢や、先輩の管理の様子を画像で紹介し、今後の栽培管理への興味・関心を持たせる。 ・栽培管理のポイントについて、タブレットのワークシートを使いながら丁寧に説明する。 ・房づくり(摘粒)の理論を丁寧に説明し、演習問題に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトで作成した、ワークシートの穴埋め問題に、答えを記入する。 ・摘粒すべき果粒について、自ら記入し、その理由を説明できる。

まとめ 5分	・本時の学習内容を確認する。	・栽培管理のポイントを確認させる。	
-----------	----------------	-------------------	--

(授業の様子)



授業に取り組む様子



摘粒の模擬演習

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

統計データや先輩の画像を見せることで、授業への興味・関心を引き出すことができた。摘粒の模擬演習では、自分のタブレットで考えさせ、さらに、その答えと理由を電子黒板で他の生徒に共有させる時間があれば良かった。

また、ブドウの品種名の由来について質問があったため、一人一台端末で調べ学習をさせるような場面があれば、より深い学びにつながったと考える。